



災害に強い町を目指して

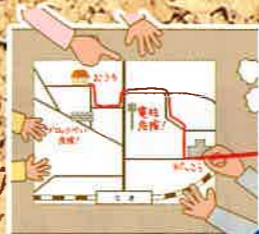
水沢地区連合防災会 会長 堤 武

日頃は水沢連合防災会の活動に際しまして、ご協力いただきありがとうございます。水沢地区では毎年8月末に行われる防災訓練や、災害に備えていざという時のための学習会や講演会を開催しています。

他の地区で起こっている災害は他人事ではありません。いつ、どんなことが起こってもおかしくないのです。地域での活動・行事に積極的に参加することにより、地域力も高まります。今一度、みなさんで防災について考えてみませんか。



新たな防災訓練 未来のために...



▲ HUG(避難所運営ゲーム)

HUG(避難所運営ゲーム)を通して...

鈴木 久代

みなさん、指定避難所を知っていますか？
きっと、8月の防災訓練の時に集まる地区の集会所等と思ってい
ませんか？実は水沢小学校の体育館なのです。集会所等は緊急避
難所であり、最終的には小学校の体育館になります。物資などの
搬入も一か所に届けられます。被災者の人数を把握するためなど、
できる限り体育館に集まってもらうことになるのです。そこで、
水沢連合防災会では平成24年1月21日に、連合自治会、地区社協、
民生委員、消防分団、婦人部、小学校の関係者の皆さんに集まって
いただき、避難所ではどのようなことを考えないといけないのか、
などを想定して行うHUG(避難所運営ゲーム)を行い、話し合い
をしました。

アンケートより

- 「何をしなければならないか」という役割分担の必要性、いざという時の対応の心構えとして、日頃の訓練が必要。スピード感を付随する細かい事柄は場面に依りて処理する手際の良さが重要となることを痛感した。
- テレビ等で避難所の風景等を目にしてきたが、今回の研修にて災害対策本部の対応の難しさがわかった。
- 災害が発生する前に災害対策本部の早急な立ち上げが必要と感じた。
- 有事の際を想定しての訓練が現実場面で有効であるかどうか不安になった。やればやるほど、不安が増す。基本は人と人との信頼関係で自己中心的にならず、常に全体のことを考え、指示に素直に従うことのできる人間なければならないと感じた。

コミュニティスクールとしての防災訓練

伴 浩人



水沢小学校コミュニティスクールでは、3月11日の震災前から、不測の事態に備え、「学校、地域と一緒に防災訓練をしてみよう」と提案があり、今回の「子どもは地域で守る」として、防災訓練が行われました。防災コーディネーターから教わった、土鍋を使った炊き出し訓練、地震体験車での震度体験、水沢消防分団による放水演習が行われました。



▲ 防災訓練の様子

横堀地区防災について考えて...

横堀町自治会

「どこに何年生の子どもがいて、その子どもの顔と名前は？」いざ、災害などが起きた時、地区のみんなの心が近くにあってほしい。そんな思いから、少し遅れた新年会と子ども会の新入生、卒業生の歓送迎会を横堀町の皆さんで行いました。様々な年齢層のみなさんで、「餅つき大会」をし、楽しみながら絆を深めました。



▲ 餅つき大会の様子



クラッカー・アルファー米・毛布・ヘルメット・ノコギリ・スコップ・鎌・ツルハシ・ハンマー・金てこ(ボール)とび口・ハンドマイク・万能オノ・コードリール・担架・救急箱・脚立・リヤカー・仮設トイレ(マンホール対応)簡易トイレ・簡易トイレ用テント・発電機・投光機・ガソリン携行缶・防塵マスク・照明セット・汚物運搬袋

東日本大震災の ボランティアに参加して

女川発(2011年5月)

田中 はるみ

東日本大震災の後、一市民として被災地へ行きたいと思っていたところ、4月28日の中日新聞、北勢版に「被災地で炊き出しボランティア募集」という記事を見つけ、さっそく参加を申し込みました。

5月3日15時、片岡温泉から総勢66名が8台の車に分乗し847キロ離れた女川へ出発。運転はボランティアの消防士4人が交代でしてくれました。15時間後の朝7時、女川高校グラウンドに到着。さっそく「復幸市」で千人分の昼食の準備。私の担当は、串カツ三千本、コロケ千個を揚げることでした。一緒に作業をした男性は、数日前から瓦礫の撤去作業に続き、今回の炊き出しに参加したとのこと。

16時に片付けが終了し、案内された女川港は、見渡す限り津波の爪痕がそのままでした。「震災」の恐ろしさを目の当たりにして、復興まで辿り着けるのかとさえ思いました。遠く離れた地に住む私は、これからどんな支援ができるのか考えながら帰路につきました。



▲ 津波の爪痕



炊き出しの様子 ▶

縁日の様子 ▶



▼ 石巻市内



石巻発(2011年7月)

石田 成生

やがて、1年が過ぎようとしています。東日本を襲ったマグニチュード9.0、震度7の大地震。岩手・宮城・福島を中心に甚大な被害をもたらしました。私は、被災地のみなさんに希望や勇気を少しでも取り戻して頂こうと昨年7月末に3日間ボランティアに参加しました。こちらを夜9時頃出発しても宮城県石巻市に着いたのは翌日の午前11時。団体でバスを借り切っていたので、休憩等々でずいぶん時間がかかってしまいました。

初日のボランティアは、小学校に避難している子ども達に、祭りの縁日の気分を味わってもらおうと、綿菓子や風船ヨーヨー、伊賀忍者の本物の手裏剣を的に当てるゲームなどを行いました。縁日が終わった後、景品のお菓子がずいぶん余ったので、その避難所に寄付しようと思ったのですが、「この子ども達はお菓子などは貰い慣れていないから他にまわして下さい」と断られ、複雑な気持ちで引き上げてきました。

ボランティアや支援物資は、欲しい時、欲しいところに欲しい分だけ情報を掴んで上手くコーディネートする必要があると感じました。

陸前高田発(2011年12月)

萩村 浩史

眼前に広がる海は、津波が想像もできないほど、穏やかな海でした。連続する瓦礫の山の中には、寂しそうな、ぬいぐるみがあったり、つい最近まで生活していた感じが残る資材が山積みになっており、思わず涙が溢れ出てきました。前日には、ご遺体が。作業中には、海水で誰か分からなくなった写真やアルバムがでてきて、自然の偉大さと、人間は生かされているのだという実感をし、水沢という素晴らしい場所で生活させていただける「ありがたさ」を感じた日でした。一緒に行っていた伊藤俊也さん、清水聖一さん、山際基司さんに心からお礼申し上げますと共に、行かせてもらった家族、仕事仲間、水沢の地にこころから、感謝しております。がんばろう!!日本!!

▶ 眼前の海と枯れた松



▲ 陸前高田復興の象徴の1本松



▲ ボランティアセンター

水沢4コマ劇場

自然がいっぱい



by MARIE-MI

ボーダーコリー特集



全犬種の中で一番賢いと言われてるって知ってたかい?

どこの子がわかるかな?



増田ジュリー 5才メス



布目モモ 4才メス



黒田ルーア 8才オス



大畑ジャクリーン 4才メス



石田ラピス 6才オス



森ふぶき 6才オス



四日市消防水沢分団の皆様、操法大会での優勝おめでとうございます。早朝の厳しい練習の成果のあらわれだと思います。おつかれさまでした。

ここで、ひとつ裏話。四日市消防団で副分団長を長く務めていただいた、故森田忠弘さん。この優勝をとっても待ち望んでいました。分団員の皆さんが森田さん宅を訪れ、写真の前で優勝の報告をしたそうです。人情味あふれる温かいお話じゃないですか。

今回の記念に奥様とパチリ!

ご寄付ありがとうございました

ご寄付ありがとうございました

編集後記

本年度は、色々と考えさせられる年でしたね！
皆さんは、どう思い、考えたでしょうか。

広報部もこの一年間を、広報誌を通して、どのように伝えるか考え、やはり防災をテーマに考えました。平成24年4月からホームページもリニューアルし、少しでも役立つように、情報提供に努力していきます。

今後とも、よろしくお祈りいたします。

- 森 靖記 様 (水沢本町)
- 森田 博子 様 (水沢本町)
- 中川 勇 様 (水沢東町)
- 小林 孝輝 様 (水沢東町)
- 岩井 孝二郎様 (水沢野田町)
- 萩村 一憲 様 (横掘町)
- 小林 哲博 様 (横掘町)
- 伊藤 津多子様 (四ツ谷町)
- 中川 琢磨 様 (水沢東町)

水沢地区社会教育福祉推進協議会では、地区の方々から寄せられました寄付金を、社会を明るくする運動、町民運動会、地区文化祭、青少年の健全育成事業や地区の環境づくりなどに活用させていただいております。今後とも「生活改善運動」にご協力いただきますようお願いいたします。平成二三年二月以降十二月までにご寄付いただきましたのは、次の方々です。